



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（4月）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2022年7月17日（日）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：6名（ディベーター4名、ジャッジ1名、オーディエンス1名）

はじめに PDA 代表理事中川智皓より、本日のキーノートスピーカーである樋笠知恵氏（信州大学医学部公正研究推進講座助教・名古屋大学未来社会創造機構招へい教員）の紹介がありました。

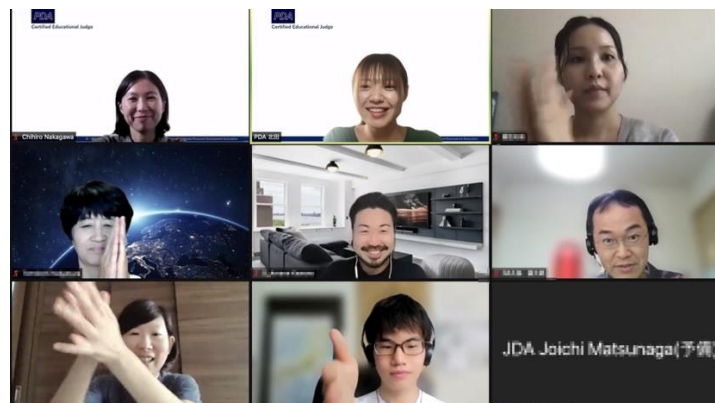
キーノートスピーカー紹介後は、早速チーム分けと論題が発表されました。



ディベートの様子

キーノートディベートの論題は、Active euthanasia should be legalized.（積極的安楽死を合法化すべきである。）でした。患者の同意はとれるのか、家族や医師のプレッシャーによって安楽死を選ぶ人が出てくるのではないか、家族の負担などはどうなるのかなどの観点について白熱した議論が展開されました。

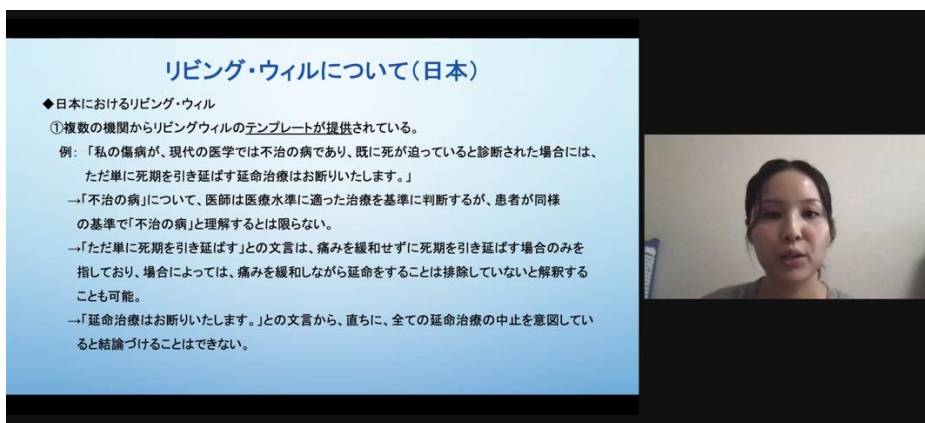
ディベートが終わると画面越しのお互いの健闘をたたえてエアークラッシュを交わしました。その後ジャッジより、フィードバックが行われました。



ディベート後のエアークラッシュ

キーノートスピーチでは、樋笠知恵先生より、海外の安楽死の状況や、日本の安楽死合法化をめぐる法的議論、また訴訟の事例などについてご説明いただきました。

また、質疑応答では、「安楽死をしたい人が、合法化されている国に行って安楽死をすることは可能なのか」「安楽死をもっと知るためにおすすめの本とは」「安楽死が合法化されている国では患者の真意はどのようにして知るのか」などについて質問の手が挙がり、より詳しく説明していただきました。



The image shows a presentation slide on the left and a video feed of a woman on the right. The slide is titled "リビング・ウィルについて(日本)" (Living Will in Japan) and contains the following text:

◆日本におけるリビング・ウィル
①複数の機関からリビング・ウィルのテンプレートが提供されている。
例：「私の傷病が、現代の医学では不治の病であり、既に死が迫っていると診断された場合には、ただ単に死期を引き延ばす延命治療はお断りいたします。」
→「不治の病」について、医師は医療水準に達した治療を基準に判断するが、患者が同様の基準で「不治の病」と理解するとは限らない。
→「ただ単に死期を引き延ばす」との文言は、痛みを緩和せずに死期を引き延ばす場合のみを指しており、場合によっては、痛みを緩和しながら延命をすることは排除していないと解釈することも可能。
→「延命治療はお断りいたします。」との文言から、直ちに、全ての延命治療の中止を意図していると結論づけることはできない。

樋笠先生によるキーノートスピーチ



質疑応答の様子

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・毎回学びが本当に多く、素晴らしい企画だと感じています！ありがとうございました！
- ・とても難しい問題だ、ということですね。倫理観や各国の文化的背景など、考えないといけないのだな、と思いました。ありがとうございました。
- ・これまでOPPしかしたこと無かったので、PMやPMRをさせていただき、非常に勉強になりました。ありがとうございました。
- ・古典的なディベートの論題をありがとうございました。ディベートのレベルが高すぎてついていけず、ご迷惑をおかけしました。でも参加できて嬉しかったです。レクチャーについてですが、あのよう具体的に事件の例などを聞くと参考になります。裁判所の考え方や世間で言われる反論なども学べて勉強になりました。ありがとうございました。